

# 学力分析シート【学年：3年 教科：社会】

テスト実施日：令和2年2月4日

実施テスト名【第4回実力テスト】

作成者【正進社】

課題が大きいと考えられる問題（正答率が低い、県との差が大きい）

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
2(3)	ハザードマップ(防災マップ)の語句を知識として持っているかを問う問題。	56.3%	86.5%	・社会の授業以外でも、他の教科や生活の中で使う基本的な語句である。この問題以外にも、基本的な知識を問う問題の正答率が広島県と比べて低い。	・まずは基礎基本の定着を図ることが必要であり、そのために小テストなどを繰り返し反復させていく。

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
6(5)	複数の資料を読み取り、それをもとに時代の特徴を考える問題。	11.8%	16.2%	・広島県と自校ともに、正答率が低く、また無答率の割合が高い。それぞれの資料を読み取る段階で難しい生徒、読み取った資料を総合して考えることが難しい生徒がいると考えられる。	・日頃の授業の中で、写真や統計・史料(歴史の根拠となるもの)などを使って考えさせていく。そうすることで、資料への抵抗感をなくすとともに、多面的に思考できるようにしていく。

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
大問5 歴史的分野 (中世～近世)	歴史的事象の因果関係を問う問題。(諸外国の動き、宗教の動きなど)	42%		・地理分野に比べ歴史分野の正答率が低く、中でも中世～近世の正答率が低い。課題としては、歴史的事象だけの理解になり、その因果関係まで理解できていないと考えられる。	・歴史的事象において起きた事実だけでなく、その背景をしっかりと考えさせる時間を確保していく。

例

問題番号	趣旨	正答率(%)		分析	取組
		自校	県		
1四 (1)ア	「対象」 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	39.1	48.2	「対象」と書かなければならないところを「対称」や「対照」と間違える児童が多かった。算数科の「対称」と間違える児童が多い。同音異義語に課題がある。漢字の意味を考えながら漢字の習得が図られていないと考えられる。	○新出漢字の学習時には、同音異義語を指導する。 ○宿題の漢字練習においては、字形の練習だけでなく、熟語の練習も行う。(例)対称な図形をかく。 ○新出漢字の練習を学期の始めに実施し、反復練習を行う。